

岡山大学の国際化に関する 将来ビジョンと戦略 -Toward 2035-

2025年4月



岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY

世界への扉を開く

岡山大学の国際化に関する将来ビジョンと戦略

本学の長期ビジョン 2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現に向けて、重要な要素となる「国際化」に焦点を当て、**10年先を見据えた「本学の国際化に関する将来ビジョンと戦略」**を定める。

これは、令和5年度に採択された、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）「地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学 ～持続可能な社会を実現させる10年構想～」とも連動するものであり、地域の国際化やソーシャルイノベーションの創出、サステナビリティの実現への貢献を目指したものである。

なお、以下に示す10年後のありたい姿は、その後に記載する社会的背景や本学の現状と課題、高等教育を取り巻く現状を踏まえて策定したものである。

10年後（2035年）のありたい姿

1. 国際的に認知され、優秀な学生に選ばれる大学

【実現のための戦略等】

- ① ESD（持続可能な開発のための教育）を、学部、大学院における教育の基幹科目として位置づけ、様々な教育分野と融合した国際的に通用する質保証された教育コンテンツ・プログラムとしてブランド化し、**「ESD for 2030」を先導**する。
- ② 各専門分野における社会的ニーズ等を踏まえ、教育の質の維持向上を図りつつ、**優秀な外国人留学生の受入を促進**する。
- ③ 国連・国際機関をはじめ、世界トップレベルの海外の大学や研究機関等と連携した世界水準の教育研究拠点を構築するとともに、国内外の大学との**戦略的パートナーシップを構築**することで大学機能を強化する。**海外大学との交流協定は、量から質に転換**し、組織間の強力な連携を推進する。
- ④ 組織的な海外研究留学の推進のため、**ダブルディグリーやジョイントディグリー制度を整備**し、大学院教育の機能強化を図る。
- ⑤ 大学院教育をさらに充実させ、日本で活躍する**高度外国人材の育成強化**により、企業等から必要とされる人材の育成に注力する。
- ⑥ 受け取り手の目線で効果的に伝える**広報活動やリクルート活動を国内外で戦略的に展開**することにより、優秀な学生に選ばれる大学になる。

2. 国際通用性を有する教育を提供する大学

【実現のための戦略等】

- ① 多様なニーズに対応した効率的で効果的な国際通用性を有する教育を実践する。また、質保証された教育コンテンツを開発・整備し、学習内容をより細分化した単位に分け、個別に認証するシステムを確立する。
- ② 海外向けに日本や岡山の魅力を伝えるとともに、本学の特色である SDGs（持続可能な開発のための目標）を柱とした短期留学プログラムを開発する。プログラムは本学の日本人学生との国際共修の場として活用する。
- ③ 学部教育への外国人留学生の受入れにおいて、GDP（グローバル・ディスカバリー・プログラム）を本学の特徴的なプログラムとして充実させブランド化する。また、GDP の外国人留学生と他学部日本人学生との共修環境を創成することで、双方の多文化・異分野理解を促し、国際対応力の向上に繋げる。

3. 日本人学生と外国人留学生が共修できる大学

【実現のための戦略等】

- ① 教育未来創造会議が提言する外国人留学生受入目標への対応とともに、本学大学院の研究力強化と大学の安定的な運営のため、外国人留学生を積極的に受け入れる。また、日本人学生と外国人留学生が正課、正課外問わず共修する環境を創出することで、多様な文化・価値観を持つ人材が集まるグローバルキャンパスを実現する。
- ② 日本人学生と外国人留学生が共修する多文化共修科目を大学全体で効果的に運用することで、様々な価値観に触れ、豊かな国際感覚を涵養し、地域から地球まであらゆる場所で活躍するグローバル人材を育成する。また、共修環境を充実させることで、日本人学生の海外留学を促進させ、教育未来創造会議が提言する日本人学生の海外留学派遣目標に貢献する。
- ③ 国際シェアハウス、留学生宿舎の有効活用などにより、生活環境の中で異文化理解や協働について学ぶ機会を提供する。
- ④ 本学の特徴的な ESD を全学展開し、多様な文化的背景を持つ外国人留学生と日本人学生が共修する環境、専門分野の異なる学生が共修する環境をつくることで、イノベーションを起こせる人材や新たな価値を創造できる人材、グローバル・リーダーとなり得る人材を育成する。

4. 学生とともに地域を共創する大学

【実現のための戦略等】

- ① 外国人留学生の地域定着促進のため、外国人留学生に対する「日本語教育」、「キャリア教育」、「インターンシップ」を一体的に提供する留学生就職促進教育プログラムを、企業等と連携して策定し運用する。
- ② 地域の企業等と連携した地域共創のため、正課及び正課外活動として、日本人学生と外国人留学生が共に地域社会と連携して取り組むプログラムを実施することで、地域の国際化と高度外国人材の育成システム構築に貢献する。
- ③ 多文化共修環境でグローバルに活躍する実践人を養成し、地域社会の国際化・グローバル化に貢献する。
- ④ 自治体、企業等と連携し、外国人留学生等が参加する事業を積極的に行うことで地域社会全体の国際化に貢献する。

5. 社会変革を先導する地域中核研究大学

【実現のための戦略等】

- ① 世界を見据えて研究力の卓越性を極め、様々なステークホルダーとの交流・対話・連携を通じて、地域、国内、さらには国際社会における課題を的確に把握し、アカデミアによる総合知と産業界の技術の有機的連携による科学技術イノベーションを創出する。
- ② 社会変革を加速させ、Well-being 社会の実現に貢献する。
- ③ 人事戦略と財務戦略を通じて、研究界の国際トップサークル先導者と、知識によって社会を変革する「ナレッジワーカー」を育成し輩出する。

6. 国際対応力を備えた大学

【実現のための戦略等】

- ① グローバル・エンゲージメント戦略のもと、国連・国際機関をはじめ、世界トップレベルの海外の大学や研究機関等と連携した世界水準の教育研究拠点の構築を全学体制で推進することで、大学全体の国際対応力を向上させる。
- ② 国際関係連携機関等との教職員の人事交流を推進し、持続発展的な関係構築を積極的に進める。また、外国人の教職員を積極的に採用することで、国際化の進展を加速させる。
- ③ 日本人、外国人の区別なく対応できる国際業務の内在化を目指し、教職員、特に事務職員の高度化(英語能力、国際対応力の強化)に努めるとともに、事務関連作業のDX化を推進する。

- ④ 外国語による効果的な情報発信はもとより、学生募集、入試における各種手続き等を DX 化することにより業務の効率化を図るとともに、**大学業務（事務組織）のグローバルスタンダード化**を目指す。
- ⑤ キャンパス内の案内表示等について、徹底的に多言語表示または英語表示することで、**キャンパス内のさらなる国際化を推進**する。
- ⑥ 外国人留学生に対応するメンタルカウンセラーの配置など、**メンタル面のサポート体制を整備**する。

7.長く愛される大学

【実現のための戦略等】

- ① **地域との連携**を深める中で、地域の国際化、活性化に貢献し、価値を創出する大学として存在感を高め、**信頼され頼りにされる存在となる**。
- ② 入学した段階から同窓会組織の一員（準会員）とし、在学生に対して同窓生との様々な繋がりを持たせることで帰属意識を醸成し、岡大愛を育ていくことで**同窓会としてのネットワーク機能を強化**する。
- ③ 日本人、外国人の区別なく、様々なカテゴリーでのネットワークが広げられるよう**国際同窓会の組織形態を見直す**。これにより、在学中の国際共修により育む国際多様性が卒業後もしっかりと引き継がれる環境を創出する。

本学の国際化に関する将来ビジョンと戦略－Toward2035－は、本学の進むべき方向を指し示すものであり、大学としての取組の加速はもちろん、**各部局等における国際化推進のための具体的な方策の検討・実施が必要である**。

今後、本学の国際化をより戦略的に効率よく推進していくために、全学的な国際戦略を企画立案し、組織的な展開を図ることを目的とする**国際戦略会議を運営**し、その中で、常に将来ビジョンやその実現のための戦略の最適化を図っていく。

背景

現代社会の急速なグローバル化により、国境や地域を越えた人・物・情報の交流が日常的に行われ、国際的な課題も一層複雑化している。このような課題に対処するには、各国間の協力が不可欠であり、その土台を支えるのが教育機関であり、特に大学には、高度な知識と技能を備えた人材の育成にとどまらず、文化的多様性を尊重し、国際社会の持続可能な発展に寄与する役割が求められている。

企業や国際的な組織が求める「グローバル人材」には、異文化理解、国際協調、創造性、問題解決能力などが必要とされており、大学はこうした能力を学生に養わせ、社会に貢献できる人材を育成する場としての役割を担っている。そのため、大学は教育内容やキャンパス環境の国際化を進め、学生が国際的な視点を身につける機会を提供することが求められる。

大学が今後も競争力を維持し、発展していくためには、国際的な研究・教育環境の整備が不可欠である。国内外から優秀な研究者や学生を招き入れ、知識の創造と交流を促進することが、大学の国際的な地位を高める上で重要な要素となり、こうした国際化を通じて教育や研究の質を向上させることが、地域社会や国際社会への貢献と大学自体の成長につながると考える。

大学の国際化は、単に外国から学生や研究者を受け入れるだけではなく、地域社会や国際社会との協力による相互発展を意識することが重要である。地域経済の活性化や国際的な課題解決への貢献を通じて、大学は社会全体の中で果たすべき役割を再定義し、持続可能な共生を目指す必要がある。

以上の背景を踏まえ、本学では教育と研究の質の向上、国際社会への積極的な貢献、多様な人材育成を柱とする包括的な戦略を掲げ、長期ビジョン「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現を目指して着実に歩みを進めていく。

現状と課題

岡山大学の国際化に関する取組状況

2012年3月に「**岡山大学・国際戦略ビジョン 21**」を策定し、「世界水準の教育研究分野を擁した、個性的な国際学術交流の拠点となる。」及び「グローバルに活躍する地域の中核的人材育成の拠点となる。」を基本理念とする中長期的な国際戦略をもとに、2014年度からのスーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）において、人をかえ、地域をかえ、世界をかえ、10年後、世界に存在感を示す岡山大学になることを目指して、**世界で活躍できる「実践人」を育成する PRIME (PRactical Interactive Mode for Education) プログラム**を本事業構想のコアとした**国際社会連携教育体制を全学展開**してきた。2020年度中間評価においては**A評価**となっており、主な取組は以下のとおり。

■国際化推進体制

2014年度に**大学院予備教育特別コースを開設**し、大学院進学を希望する外国人留学生を対象に研究に必要な学術日本語を学修させることで、2023年度までの入学者261人のうち177人が本学大学院に進学、優秀な留学生の確保に繋がっている。

2013年度に全学の国際教育を担当する**グローバル人材育成院を設置**、2015年度には全学部学生対象の副専攻コース、**グローバル人材育成特別コース**の定員を50人から100人に増員し、2019年度には学部等で企画・実施する学部・学科型のコースも新設。並行して、語学研修及び短期海外研修、また、部局短期プログラムの一部をカリキュラムに組み入れ、これまでに1,114人を海外へ派遣。**高度実践人認定者、One Young World (OYW) や日米学生会議、模擬国連等の国際的な活動やSDGs関連の活動に取組み**、国内外で表彰される学生を毎年輩出し、全学グローバル化に貢献している。

2016年度に**国際学生シェアハウスを新設**し、日本人及び外国人が共に暮らすことで異文化理解を促進する環境を整備した。

■教育制度改革

2014年度に**高等教育開発推進機構（現:教育推進機構）を設置**し、全学的・体系的・戦略的な教養教育を構築した。2016年度から全学部で**60分授業（2021年度から50分授業）・4学期制を導入**した。学生の語学力強化のため、**英語外部検定試験を導入**し、英語力の伸長を経時的に評価・確認する体制を整えた。**英語版シラバスの導入及びシラバスへのナンバリングコード追加**により、授業科目の難易度・属性等が明確となり、教育課程における授業の位置付けや履修目的等を学生が明確に把握できるようになった。

■グローバル実践型教育

2016年度からブリティッシュコロンビア大学（UBC）とのCo-opプログラ

ムと連動した「国際インターンシップ」等のグローバル実践型科目に加えて、各学部では専門性を活かした特色ある留学プログラムを展開した。2020年度からのコロナ禍では、オンラインを活用した交流を展開し、多くの高度実践人を輩出した。

■ 学部・学科の境界を越えるグローバル教育

2017年度に留学生と日本人学生を各30人、1プログラムとして募集、英語を共通言語とし、学部・学科の枠にとらわれない自由で実践的な学びを通してグローバルに活躍できる人材を養成する、グローバル・ディスカバリー・プログラム (GDP) を新設した。GDPは、2025年3月末時点233人(24カ国)の学生からなる多様性に富んだ学生集団が実現した。また、GDPの学生は多様な学生達の学び合いを基調とする学修環境を活かした OYW やアジア・太平洋地域の若手リーダーシップ研修プログラムへの参加、学生ジャーナル「Polyphony」の継続的な出版等、学内外で活躍している。

■ 医工連携と文理横断による強みの伸長

2015年度に自然科学研究科を改組し、生命医用工学専攻を設置。2018年度には生命医用工学専攻を発展させる形で、医工連携と文理横断を特色としたヘルスシステム統合科学研究科を新設した。医工連携に加え文理横断による教育研究体制を強化したことで、国際共著率及び受入・派遣学生数がいずれも増加した。

■ 国際化を支えるガバナンス改革

2016年度まで登用した実務家集団5U (UEA、UAA、UGA、URA、UPR)は、UEAを教育推進機構に、UPRを広報課にそれぞれ役割を引き継ぎ、内在化した。UPRは、HPの統一化や海外に向けた本学PR動画を作成する等、ブランディングの強化及び国際的な広報活動を展開した。UGAは、2018年度に本学海外戦略担当副学長に任命するとともに2020年度には国際機関や海外大学との直接的な連携を図るグローバル・エンゲージメント・オフィス (OUGEO)を学長直轄のオフィスとして新設し、SDGsやユネスコ等に関する本学の取組の成果を国内外へ発信するとともに、国際機関等との戦略的な連携を強化し、本学の国際化を推進している。

上記の他、2019年度から継続実施している米国国務省重要言語奨学 (CLS) プログラム (日本語教育・日本文化研修やSDGsをテーマとしたプロジェクト型学習をコンセプトに、日本人学生(Language Partner)との交流を通して、プログラム実施)や、2021年度から継続実施している UNCTAD との研究者受入プログラム (短期研究者受入プログラム(途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース)と長期プログラム(途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム))の実施を通じて、国際化推進による組織の機能強化を図っている。

数値で見る岡山大学の国際化の状況

指 標	2013 年度	2023 年度	増加数	増加率
外国人留学生数（5/1 現在）	468 人	900 人	432 人	192%
外国人留学生数（通年）	723 人	1,347 人	624 人	186%
海外留学経験者（単位有,学部）	240 人	546 人	306 人	228%
海外留学経験者（単位有,大学院）	6 人	64 人	58 人	1,067%
異文化交流体験率	10%	39.2%	29.2%	392%
外国人教員等数	445 人	566 人	121 人	127%
外国籍教員数	59 人	83 人	24 人	141%
国際交流協定数	215 件	404 件	189 件	188%
外国語による授業科目数	200 科目	1,802 科目	1,602 科目	901%
外国語力基準を満たす学生数	442 人	1,269 人	827 人	287%
TOEFL 等外部試験活用率	0.8%	83.7%	82.9%	10,463%

国立大学の新しいグローバル化のビジョンとミッション

（国立大学協会が策定した「国立大学グローバル化アクションプラン－国際社会における共創へのリーダーシップを発揮するために－」（NUGLAP: National Universities Global Leadership Action Plan）（国際交流委員会決定）より）

国立大学は、日本のみならず世界の知の中核拠点としての機能を一層拡充し、国籍を問わず多様な人材を惹き付けて、高度な知識と能力を育み、それらの人材が我が国及び世界の各地で活躍する基地となり、また国境を越えた研究者のネットワークを形成して、世界最高レベルの研究を行うハブとなることを目指す。そのときキャンパスでは、リアルにまたバーチャルに、人種や宗教、価値観等の違いを超えて世界から人が集まり、様々な言語が飛び交いつつ、授業が行われ、闊達な議論が行われる。このような情景がグローバルな国立大学の未来である。また、主に地域に根差す国立大学は企業等産業界と連携を強化し、高度外国人材の社会及び地域への定着を先導することで、地域における多文化共生社会を実現する。こうして国立大学には、国際的に活躍し地域のグローバル化にも貢献する高度な人材の育成と国境を越えたグローバルな規模での研究の展開が、そのミッションとして課されている。

高等教育を取り巻く現状（中教審・高等教育の在り方に関する特別部会検討資料より）

（急速な少子化の進行）

- ・ 18歳人口の大幅な減少（1966年:約249万人（最高値）→2022年:約112万人→2040年:約82万人）
- ・ 大学進学者は増加（1966年:約29万人→2022年:約64万人（最高値））
- ・ 大学進学率の伸びを加味しても、2040年の大学入学者数は約51万人、2050年までの10年間は50万人前後で推移と推計
- ・ 2026年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測
- ・ 生産年齢人口が2030年にOECD加盟国中最下位に（57.3%）
- ・ 岡山県は、2021年の18歳人口が18,190人、うち大学進学者は9,328人（進学率51.3%）、これらを基準に2040年を推計すると、18歳人口は13,161人、大学進学者数7,694人（進学率58.5%）が見込まれ、大学進学者数は17.5%の減少
- ・ 岡山県内には、国公私合わせて18の大学があり、入学定員の合計は2021年時点で9,905人、私立大学の入学定員充足率は87.1%

（経済・産業・雇用の変化）

- ・ 世界のGDPに占める日本の割合の大幅な低下（2000年:8.3%→2060年:2.7%）
- ・ 世界競争力ランキングの順位低下（1989年:1位→2023年:35位）
- ・ 多様な分野で人材が不足し、ITで補完する必要性が生じているが、先端IT人材の不足の恐れ（2030年:54.5万人の不足）
- ・ 脱炭素化による新たな雇用の創出と既存雇用の喪失
- ・ 将来求められる能力等の変化（2015年:注意深さ・ミスがないこと、責任感・まじめさ→2050年:問題発見力、的確な予測、革新性）

（学修者本位の教育への転換など高等教育改革の推進）

- ・ 大学設置基準の改正（2022年）による基幹教員制度の創設や教育課程等に関する特例制度の創設等
- ・ 教学マネジメント指針の策定（2020年（2023年追補））
- ・ 全国学生調査の実施（2019,2021,2022年）
- ・ 修学支援新制度の導入（2020年）、低所得者世帯の高等教育進学率の上昇

（コロナ禍を契機とした遠隔教育の普及）

- ・ 多様なメディアを利用した遠隔授業を実施する大学の増加（2017年:28.1%→2021年:70.1%）
- ・ 授業の受講形態は対面授業中心（対面授業77%、同時双方向型オンライン授業9%、オンデマンド型オンライン授業11%、その他実習等2%）

(初等中等教育段階の学びの変化)

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの推進
- ・ GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末等の ICT 環境の整備の進展 (2019 年～)
- ・ 高等学校での「総合的な探究の時間」等における問題発見・課題解決的な学習活動の充実 (2022 年～)

(我が国の研究力の低下)

- ・ 日本の論文数の世界ランクでの低下 (論文数/Top10%/Top1% (2000 年: 2 位/4 位/4 位→2020 年: 5 位/13 位/12 位))
- ・ 論文数規模の近い英独と比較 (上位大学の論文数は日本の方が多いが、上位に続く層の論文数は英独の方が多い。)
- ・ 博士の学位授与者数の減少 (2006 年: 約 1.8 万人→2020 年: 約 1.6 万人)
- ・ 教員の理想と必ずしも一致しない教育業務や大学運営業務に伴う研究時間の制約感
- ・ 国際頭脳循環の流れへの出遅れ

岡山大学のビジョン・戦略

岡山大学のビジョンと戦略

■ 人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築のもと「知のグローバルゲートウェイ」として**地域と世界をつなぎ、「地球と生態系の健康 (Planetary Health)の実現**に向かって地域と地球の「**ありたい未来の共創**」に貢献する

2019～2021 岡山大学ビジョン2.0 岡山から世界に、新たな価値を創造し続ける SDGs推進研究大学	2022～2027 岡山大学ビジョン3.0 ありたい未来を共に育み共に創る研究大学	長期ビジョン2050 地域と地球の未来を共創し、 世界の革新に寄与する研究大学
--	--	---

■ **SDGs大学経営**；SDGsへの貢献を大学経営の中核に置き、教育研究・産学共創を一体的に改革して新たな事業モデルを展開

グローバル・エンゲージメント戦略・岡山大学DX推進プラン

教育	研究・産学共創	大学経営
「主体的に寛容し続ける先駆者」の育成 ・大学院教育改革 ・学士課程と高大接続の一体改革 ・リカレント教育の充実	研究成果の社会実装を促進し社会課題解決 ・若手研究者が自由な発想で挑戦的研究に取り組める ・環境の整備 ・学内におけるイノベーション創出機軸の集約化と強化	変化に強い強靱な組織へ ・ERMによるガバナンス体制の強化 ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ・インナーブランディングの強化 ・大学院経営の健全化、財務の多様化、自律的な法人経営

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) (令和6年度～令和10年度) 地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学 ～持続可能な社会を実現させる10年構想～	国際化に関するビジョンと戦略～Toward2033～ 研究大学としての機能強化に大学のさらなる国際化と教育改革 を連動させ長期ビジョン2050を目指す
--	--

■ **研究力強化・イノベーション創出戦略** “将来ビジョンの実現には、知識によって社会を変革する「**ナレッジワーカー**」の育成・輩出が重要”

- ✓ 研究IR（エビデンス）に基づく拠点形成
- ✓ **強み分野と次世代にリソースを投資し、研究界の国際サークルと勝負できるよう、強みをさらに強く、尖らせる**
- ✓ **国家戦略や地域の思いを先取り・先導し、岡山大学でしか成し得ない研究を展開のうえ、社会変革を起こす**
- ✓ **総合知の活用によりアカデミア・産業界を巻き込み、新たに「外なる場」でのコミュニティを形成**
- ✓ **若手、中堅、シニアが、やりがい、感動、高揚感を感じ、誇りと希望を持ち、研究に打ち込める場を形成**

世界規模の異常気象・自然災害の急増に加え、エネルギー供給も不安定化するなど、人類はエネルギー、環境、食糧、人口問題等で未曾有の危機に直面している。このような中、岡山大学は「地球と生態系の健康 (Planetary Health)」の実現に向け、地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献することを使命とし、その使命達成のため、2022年4月に**長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」**を掲げ、卓越性とイノベーション創出機能の強化により、ビジョン実現に向けて取り組んでいる。また、アカデミア発の知見と共創の場を求めて多様な人材が集まり、世界的地球環境課題（食糧・エネルギー危機、異常気象、地域医療等）に向き合う、卓越した研究力とイノベーション力を兼ね備えた地域の中核大学として、「**知識によって社会を変革するナレッジワーカー（知識労働者）**」を育成・輩出し、**イノベーションの叡智で地球と生態系の健康 (Planetary Health)、Well-being・人の健康 (Human Health) 及び安心・安全に暮らせる地域の健康 (Community Health)の実現と、そのための社会変革の実現**を目指している。

本学は、昨年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」に採択された。本事業は、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群を形成するものであるが、本事業への採択を単なる「目的」ではなく、本学の長期ビジョン2050の達成に向けた着実な一歩と位置付けており、**世界トップレベルの研究分野やイノベーション創出拠点を創り出し、社会変革を起こせる研究大学**を目指している。

結び

本学は、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築のもと「知のグローバルゲートウェイ」として地域と世界を繋ぎ、「地球と生態系の健康（Planetary Health）の実現」に向かって地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献していく。そのためには、教育の質の向上、研究推進とイノベーション、俯瞰的な視野の育成、社会との連携、インクルージョンとダイバーシティの促進などが重要であり、これら全ての点で国際化の推進は避けて通れない課題である。